

文化振興課：望月課長、三浦補佐、宮崎係長、福原主査、平松主任主事

・ 静岡市文化振興計画 後期実施計画 令和4年度事業実施評価総括について

[illegible]

	◆複数の意見を集約しているため、言葉の意味に齟齬がないか、方向性にズレがないか等、ご審議いただきたい。 ◆第1期の総括としてどのように次に繋がっていくかということを手くまとめていきたい。 ◆第1期計画の時点では、「創造的人づくり、創造的魅力づくり、創造的にぎわいづくり」という3つの視点で評価している。 ⇒詳細はA3ペーパー参照 ◆皆さんの意見をどこにウエイトを置いて入れていったらよいかご意見を頂戴したい。 ◆ニュアンスが違うところや不足しているところがあれば併せてご意見を頂戴したい。 ・創造的魅力づくりの「改善すべき点・今後の事業に期待すること」については、ちゃんと入っているなと思って見ている。若い人達をいかに作っていくか、その場がきちんとあるのかということに危惧している。社会でいかにリカレント、再教育する場を用意することが、文化にも繋がっていくと思う。文化芸術だけで捉えるのではなく、その一手手前の人をいかに作るか、その人達が新しい視点で新しい価値を生んでいくということを作らないといけない。 ・駿府匠宿は観光施設ではなく人づくりの場にしなければならない。行政でベクトルを示すべき。 ・学校教育の先生が来年度6,000人減るという数字が新聞にて発表された。益々教員のなり手が減る、それはどういう事かというところ、社会そのものがもっと学びの場でなければならない。どのところで若い人達を教育していくのか、それが社会全体ということになるのだと思う。 ・中勘助と芹沢銈介の「関心度が低下している」という表記の根拠となる数値的なものは把握されているか。 ・数値までは持っていないが、良い施設であるのに静岡として教えているのかどうか、分からないままであったため、課題として挙げさせてもらった。 ・中勘助や芹沢銈介について知っている人がどのくらいいるのかなという思いから私も書かせてもらった。中勘助文学記念館の入場者数が少ないことも気になった。 ・全体を通して立派な方がお出になって、その方の記念館を造ることは大事なことだが、言葉は語弊があるかもしれないが、どれ	平野会長 吉川委員 平野会長 吉川委員 久保田委員
--	--	--

	くらいになると陳腐化するのか、価値をどこまで保っていられるのか、次の世代の方にもそれを価値として持ってもらえるのか、何らかの形で一旦埋もれたものがリバイバルするものもあれば、そのまま歴史の中に埋もれていくというのもあるので、そういうものを行政がどこまでトレースしていったらいい、どこで手放すのか大きな課題なのではないかと見ている。 ・ブラッシュアップするのか総括するのか、そういった見直しを行っていく必要があると感じている。 ・昔の人を評価しながらそれをどういう風に受け継いでいくのかは考えていかなければならない。 ・駿府匠宿に関して言えば、観光として捉えれば大成功している。文化と観光をどうやって繋いで使うのかという世の中の考え方になってきているので、一概に悪いとは言えない。 ・普遍的な大事な問題を含めている。その人の業績や残したものは、熱意を持って語り継ぐ人がいないと難しい。 ・銀の匙は、灘高校の橋本先生が何十年間にも渡って、教科書として使用した。1年間それしか使わない。そういう生徒たちは頭の中に染み込んでいる。そのくらい1人の語り部がいたというのは大きな要素となっている。中勘助に関して今静岡市にそれがあるかといったらないという答えになる。 ・芹沢銈介に関しても同様で、芹沢銈介を研究して語り継ぐ正規職員の学芸員は館に1名しかいない。次に繋いでいく人がいない、途絶えてしまう、どうするんだ、ということを経年前から言っているが変わらない。一つの典型例で、いいものはある、だが、それを伝えていく人づくりが出来ていない。何とかしようとする努力は今後も求められる。 ・民藝は今リバイバルが来ている。日本民藝館を見ても館長は必ずしも専門的な方ではなくデザイン畑の人だったりする。大阪でやっている民藝展にも芹沢銈介が出品されているが、白井晟一が建築した美術館の空間の中で、展示されているのが良く、座布団一つ飾るにしても他のところに飾られるとあまり良くないと思うことがあり、美術館は見せ方が分かっているなど思うことがある。来館者も常時一定数はいる印象があるので、次世代の人材育成に関しては繋げていったらいいなど思っている。中勘助に関しては、伊豆文学祭が10月にあって、県内の色々な文学のイベントが紹介されており、その中に中勘助文学記念館のイベントも載っていて、三島の友人は中勘助文学記念館が静岡市にあるという事も知らなかった。記念館で色々なイベントをやっている、中	田中委員 成島委員
--	--	-------------------------

勘助が読まれていないというのが1番大きいのではないか。静岡の学校の中で中勘助の銀の匙を読み継いで大切にしていこうというのをした方がよいのではないかなと思う。芹沢銈介はコレクションも膨大にあって、展示ができるというのは一つ力があると思うが、中勘助の展示物は魅力的にしきれていないかなという印象を受ける。 色々な事業を文化振興計画の中でやっていく時に、ただ単に事業をやりただけではなく、何のために事業をやっているのかというバックキャストから考える必要があると感じている。 コロナ禍を経て活気を取り戻してきているところも多くあり、富山や金沢の駅の大きさ、お客さんの誘導の仕方にスケールの違いを感じた。静岡のにぎわいづくりにおける静岡まつりや清水みなと祭りなどのイベントも内向きの動員力でしかなくて、駅に降り立った時に今このイベントをやっているんだというところまで行きついていないなと如実に感じている。何年もやっている事業でもどういう視点でどういう取り組みなのかという目的を市が注文付けていくというのが文化振興計画の流れになっていくのかなと感じている。 ・そういった意味では、静岡市文化振興計画が役割を果たすべきなんだろうなと感じます。 ・次世代の芸術家を育てる、市民の中で芸術鑑賞に携わる方を育てるというのは教育行政との連携だと考えている。京都大学で開かれた学会に出て、今年の秋にオープンする京都市立芸大の新しいキャンパスについて討論した。同時期に金沢の美術工芸大学のキャンパスも新しくなる。金沢も京都も市が都市が芸大を持っている。文化政策の中で若いアーティストやクリエイターを育てる意味では欠かせない文化投資だと思う。それに市が関わっていて、地元だけではなくて海外や日本全体に大きなインパクトを与えている。 静岡県では浜松市に文化芸術大学があり、歴史は浅いが、社会にインパクトは強いのではないかなと思う。都市が若い芸術家を育てていくというそこを活かした考え方を将来にわたってどういう風にしていくのかというのがあってもよいと思う。 ・私の認識では全国の個人を顕彰する美術館はほぼ入館者数が減っていく傾向にあるとみている。長谷川町子さんですら時代とともに入館者数が横ばいあるいは少し落ちているというのは聞いている。そういった意味で静岡市は中勘助だけではなく小泉八雲やほかの美術館とも連携をして企画をするなど工夫はあるが、	平野会長 佐々木副会長 平野会長
---	---------------------------------------

年に1回と回数も少ない。人を育てていく仕組みをもう一つやっていかなければならないと感じる。芹沢銈介でいえば、出張の事業なども静岡高校はじめいくつかの小中学校でやっていると聞いているが、そういった努力が教育というところまでは結びついておらず、同時に本腰を入れて予算が付けられていない。新しい時代の教育の場を学校教育だけではなく広い意味での仕組みはもっと必要になってくると感じている。

・総括書に記載されている「関心度が低下している」という書き方は、場合によっては入館者数の問題を反映させながら具体的に記述していく方法はあるかもしれない。

・京都と金沢も現代アートの美術館に力を入れようとしている。これは世界的な流れで、現代アートの力を都市の中に創っていく。金沢の場合 21 世紀美術館が都心にあることによって周辺の小さい美術館を含めて全体のネットワークができていく。それをミュージアムクラスターと呼んでいる。また、昼間だけではなくてナイトミュージアムを作ったりしている。

2020 年に国立工芸館が金沢に開館したが、伝統的な作品だけでは若い人は来ないので、今年「ポケモン×工芸展」を開催したところ爆発的に当たっている。次々と美術館に既存のものだけではなく、新しいものを追加していかないと若い人は出て来ないんじゃないかなと感じている。

・何らかの視点で新しくそれをどう活かしていくのか、例えば中勘助文学記念館と言ってしまうので、その場所ではそれしかやっちゃいけないようになってしまう。どこかの場所に持って来て、中勘助はこんな事やりました、中勘助ルームをこっちに作って、ここでやりますよ、だから記念館は別の事に使いましょう、とか、例えば静岡市の美術館が中心となって全体のクラスターを創るであるとか、そういった形で新しい展開を創っていく、そのためにそれぞれの場所を評価していく、昔からある場所を守っていくだけでは文化行政は硬直していつてしまうんじゃないかと思う。また芸術家だけではなく、時代的な人、古い人物をどう評価するかということで、例えば静岡の郷土にいた人、徳川家康や今川義元、私に関して言えば、徳川慶喜が関連しますが、一人一人の人物の評価というのはあるところでは急に盛り上がって、またあるところでは廃れたり、色々な人が再評価したり光を当てたりすることで出てくるということがある。全体を通して中勘助や芹沢銈介、さくらももこも含めて静岡にとってどういう意味合いを持つのかどう評価していくのか、市としてどういう見方をして

佐々木副会長

久保田委員

はなかなか市に届かないと言っていた。市内の実情に応じた具体的な仕様が織り込まれたものであるといいなと思っている。そのようなこともあって、現状、静岡市民文化会館の設計がどのようなになっているのか聞きたいと思っている。 ・静岡市民文化会館については、現在進めている最中であり、具体的な現状についてはお伝えできない状況である。過去の審議会での議論やパブリックコメントの意見を参考にしながら検討を進めている。公表できる時期になったらこちらでも報告させていただく。 ・審議会でもパブコメでもワークショップもひと通りやっていただいて、それをどのように設計の中に反映させていくのかも検討していただいていると思う。今は一つの建物を改修していくのに、全体の予算が膨らんでいるような状況で、そこをどういう風に抑えていくか知恵を絞っていただいているのではないかと理解している。 ・物価高騰が激しい中で市全体の財政の中身も含めて、どういったものにするかを含め計画を作成している。 ・吉川委員が心配されていると推察される管理方法についてはPFIも6種類あるので、どこまでPFIに出すのか、丸投げではなく議論を重ねてどういう方法がよいのか模索している最中ではないかと感じている。より良い状態に進もうとしているのは私自身も感じている。 ・創造的にぎわいづくりのサードプレイスの部分は、静岡市民文化会館の改修にかかっていると感じている。SBS学苑の書道教室は一定数参加者が来ている。ジャズも同じで、民間の学びの場所はたくさんある。市はそれを拾い切れていない部分もあると思う。もう少し後押しできるといいかなと感じる。ハードはもちろんだが、そこにどういったソフトを入れていくのか民間の色々なところと話をしたり、調査をしたらいかがかなと思う。 ・ハードだけ作っても人が集まらない場所では意味がない。審議会の中でもそういった視点で議論していただいた中で「サードプレイス」という言葉が出て来ていると思う。箱ものを作るだけではなく「中身」についてきちんと議論しなければならないと改めて感じている。 ・新しい文化会館が民間と公共を繋ぐような計画をされているのではないかと理解している。ハードとソフトを別々に考えるのではなく一緒に考えていくことが重要。 ・まちの魅力という意味では、静岡市は全体像をこれまであまり	望月課長 平野会長 望月課長 平野会長 久保田委員 望月課長 平野会長 田中委員
---	--

	考えて来なかったのではないかと感じている。金沢は、40 年前は金沢城の中は金沢大学のキャンパスであった。今は見事な金沢城が復元されている。40 年かけて大学を外に出して、市が城の復元をやり続けて来た結果、まちの核となっている。その周辺に色々な資源があって、まち全体の魅力に繋がっている。静岡市より人口の少ない市がそれだけのことを成し得た。静岡市にはそれに匹敵するむしろそれ以上の城址があるにも関わらず全く活かされていない。こういう認識が実に惜しい。まちづくりの核になる大きなグランドプランがないと、できるものもできない。色々な人にぜひ考えてもらいたい。 ・大学として使うのも金沢の選択としてはあったと思うが、市民に開く、開き方もかなりあちこちに大きく開いた。天守閣は図面がないから作らない。現在の姿は図面と写真があり、測量できる範囲で復元した。金沢城址を含め、金沢都心を文化の杜にするという大コンセプトのもとに県立美術館や鈴木大拙館をはじめとした様々な美術館が展開しているが、これは、市長と経済界がタッグを組んで、また、私のような学者も入って建設した。 一つのモデルにはなっていると思う。 ・だいぶ大きな話にはなっているが、今後を考える上でとても重要なことであると思う。総括書については、もう一度整理をして12 月くらいに話し合う時間を設けて第2期計画に繋げていくような内容で埋めていく。	佐々木副会長 平野会長
15:00	事務連絡 (スタンプラリーご案内) ・芹沢銈介美術館、中勘助文学記念館ほか全4館で実施 ・静岡県立大学の学生と連携 ・服織中学校校歌 中勘助作詞 その縁で生徒が文学記念館を訪れている 閉会	望月課長 宮崎係長

署名(会長)

平野雅彦

署名(委員)

久保田隆

